2026年3月8日

加盟団体理事長　様

公益財団法人日本バドミントン協会
事業本部長　　朝倉　康善

「タイムクロック制」と「15×3制」の扱いについて

平素から本会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。 標記に関して、各加盟団体において2026年度の準備を円滑に進めていただくため、本会の対応見込みを下記の通りお知らせいたします。

【タイムクロック制】

昨年11月7日、BWF理事会の情報にもとづき加盟団体理事長宛に「タイムクロックシステム導入」に関するメールを発出いたしました。そこでは、11月17日から「タイムクロックと継続的なプレーに関するBWF新ガイドライン」が施行され、大会での試験導入が開始されること、試験導入が成功すれば2026年以降に本格導入予定であること等をお伝えいたしました。

現時点のBWF導入大会の状況を見てみますと、「タイムクロック制」の運用にバラつきがあり、統一的な扱いが確立するには一定の期間を要するであろうと思われます。

本会といたしましては審判部会・競技運営部会の議論を踏まえ、2026年度に「タイムクロック制」を導入することは見送り、従来通りの扱いを継続することといたします。しかしながら、2026年度中にBWFの大会で「タイムクロック制」の運用が標準化されてきたと判断できる場合には、本会としても世界の動向に対応するため、関係者との協議と十分な周知の下、「タイムクロック制」を特定の大会で試験導入する場合があることも併せてお伝えいたします。

【15×3制】

15点3ゲームマッチのスコアリングシステムについては、昨年11月のBWF理事会で議論され、本年４月下旬のBWF総会で審議される見込みとなっています。過去のスコアリングシステムの議論の経過では、理事会提案であっても総会で否決されたこともあり、予断が許されません。また、仮に「15×3制」の導入が決まるとしても、施行の期日、付帯事項の有無等は総会終了まで分かりません。

本会といたしましては、現行の大会運営において競技時間の短縮を求める声を多数いただいていることを踏まえ、BWF総会で「15×3制」への移行が決定された際には、その施行期日を見極めながらできるだけ早い時期に国内大会への導入を進めます。

不確定要素の多い中ですが、「15×3制」の導入を本会から通達した際に各加盟団体でどのような対応をとられるか、あらかじめの検討をお願いいたします。あくまで仮の期日ですが、

①４月下旬に導入となった場合の対応
②８月上旬に導入となった場合の対応

等をお考えいただければと考えております。

なお、本会では全日本社会人大会・全日本ジュニア大会・全日本シニア大会・全日本総合大会、S/Jリーグ、日本スポーツ協会主催の国民スポーツ大会・日本スポーツマスターズ大会について、仮に予選と本選のシステムが異なることになっても導入を進める方向で検討を始めております。

以上